



2023年6月12日

各 位

会社名 カーリットホールディングス株式会社
(URL : <https://www.carlithd.co.jp>)
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文
(コード番号 4275 東証プライム)
問合せ先 広報・サステナビリティ推進室長 島田 拓
(TEL : 03-6893-7060)

2023年3月期決算説明動画配信のお知らせ

当社の2023年3月期決算説明動画を配信いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

2023年3月期決算説明会を6月1日、機関投資家・証券アナリスト向けにライブ配信にて開催いたしました。フェアディスクロージャーの観点から、同説明会をYouTubeにてオンデマンド配信いたします。

説明内容と発表者は以下の通りです。

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 2023年3月期 決算概要 | |
| 2024年3月期 通期見通し | 取締役兼執行役員 谷内 俊文 |
| 2. 中期経営計画ローリングプラン 2023 | 代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文 |

以下のURLよりご視聴のほどお願いいたします。

<https://youtu.be/fpiCtG29Zqg>

以 上

2023年3月期 決算説明

中期経営計画「Challenge2024 ローリングプラン2023」



カーリットホールディングス株式会社

CODE : 4275

- 2023年3月期 決算概要
- 2024年3月期 通期見通し

取締役兼執行役員 谷内 俊文

- 中期経営計画ローリングプラン

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

2023年3月期 決算概要

(単位：百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	差異	
			増減率	
売上高	33,894	36,008	+2,114	+6.2%
売上原価	25,246	27,321	+2,075	+8.2%
販売費及び一般管理費	6,140	6,046	△94	△1.5%
営業利益	2,506	2,640	+133	+5.3%
経常利益	2,742	2,910	+168	+6.1%
純利益	2,336	2,246	△89	△3.8%

特別利益 投資有価証券売却益 424
 特別損失 関係会社株式売却損 82

決算概要

< 事業部門別実績 >

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	差異	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	差異
化学品	16,950	17,896	+945	1,172	1,294	+121
ボトリング	4,360	4,774	+413	218	151	△66
産業用部材	9,313	9,741	+427	654	700	+46
エンジニアリング サービス	4,173	4,203	+29	892	651	△240
報告事業部門計	34,798	36,615	+1,816	2,937	2,798	△138
連結合計	33,894	36,008	+2,114	2,506	2,640	+133

【化学品事業部門】

産業用爆薬	↘	不採算製造拠点撤退で減収、原材料価格・エネルギーコスト高騰で減益
自動車用緊急保安炎筒	↘	新車向け増収。ガラス破壊具付き好調で車検交換向け増収 原材料価格の高騰で減益
高速道路用信号焰管	↗	交通量回復と工事規制需要増加、適正価格維持で増益
煙火関連	↗	花火大会の一部再開で増益
宇宙産業	—	固体推進薬開発を顧客と進行中 推進薬製造を行い、初号機打上げに向け射場へ納品完了
受託評価試験	↘	電池開発活況継続で増収、一方電力価格の高騰で減益
塩素酸ナトリウム	↗	適正価格の維持で増益
過塩素酸アンモニウム	↗	原材料・エネルギー高騰影響あったがロケット推進薬向け増販で増益
過塩素酸	↘	海外需要低迷で減益
電極関連	↗	適正価格維持、新規メッキ用途受注で増益
電子材料関連	↘	電気二重層キャパシタ用電解液は増収、 一方でPC需要下降、中国のロックダウン・電力制限で減益
機能材料関連	↘	近赤外線吸収色素が認証センサー需要拡大で増収、 一方でスマホ・フラットパネルディスプレイ市場の不調で減益
セラミック材料	↗	シェア拡大および新規拡販に加え、適正価格の維持で増益

決算概要 <利益の増減要因 ②>

【ボトリング事業部門】

ペットボトル飲料	↘	需要回復に加え、新規製品の受注で増収。エネルギーコスト高騰で減益
缶飲料	↘	自販機向けコーヒーの販売減で減益
委託品	↗	新規品の受注などで増益

【産業用部材事業部門】

シリコンウェーハ	↘	中国のロックダウンによる需要減、エネルギーコスト高騰で減益 高平坦度ウェーハを始めとする高付加価値製品の開発・販売に注力
耐熱炉内用金物	↗	都市ごみ焼却向けアンカー、リテーナの販売好調で増益
各種金属スプリング・プレス品	↗	建機向け需要の好調継続で増益

【エンジニアリングサービス事業部門】

建築・設備工事	↘	収益性の高い案件が減少し、減益
塗料販売・塗装工事	↗	市場環境の好調で増益
構造設計	↘	市場の競争環境が激化傾向にあり、収益性の高い案件が減少し、減益

2024年3月期 通期見通し

(単位：百万円)		2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	差異	増減率
売上高	第2四半期	17,586	18,000	+414	+2.4%
	通期	36,008	38,000	+1,992	+5.5%
営業利益	第2四半期	1,104	800	△304	△27.5%
	通期	2,640	2,700	+60	+2.3%
経常利益	第2四半期	1,287	900	△387	△30.1%
	通期	2,910	2,900	△10	△0.4%
当期純利益	第2四半期	951	750	△201	△21.1%
	通期	2,246	2,300	+54	+2.4%
期末配当	1株当たり	20円	20円	—	—

※第2四半期は累計値

通期見通し

< 連結・事業部門別 >

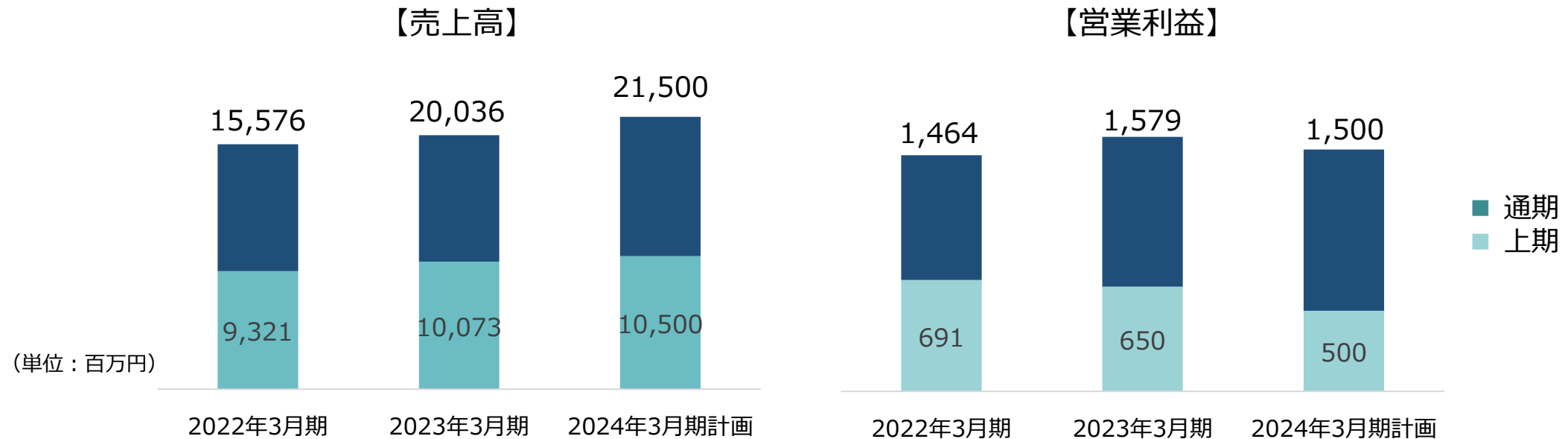
事業ポートフォリオ経営にあわせ、
 事業部門区分を変更。

(単位：百万円)

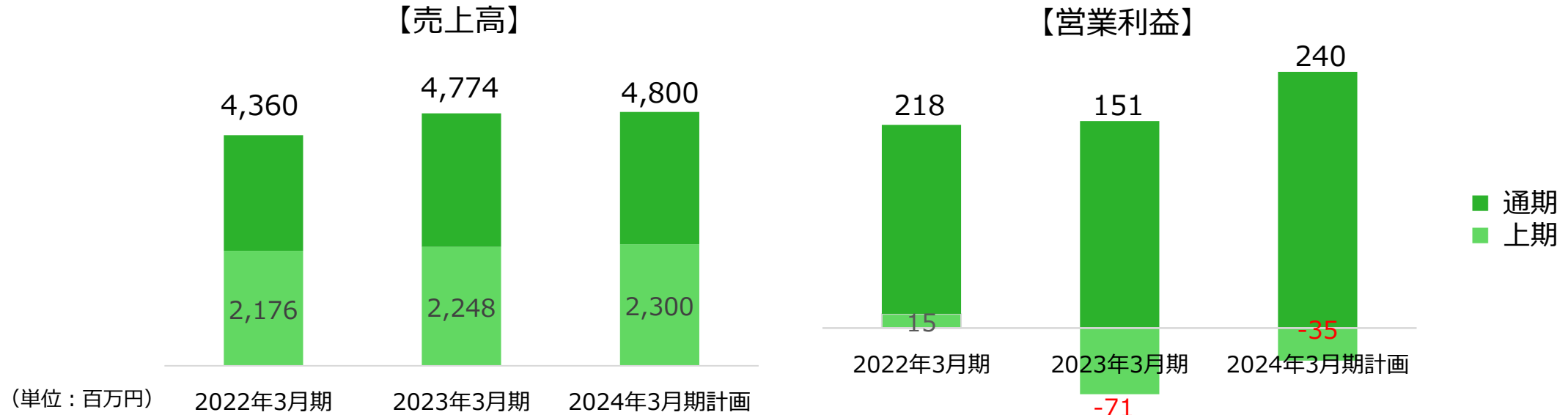
	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	差異	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	差異
化学品	20,036	21,500	+1,464	1,579	1,500	△79
ボトリング	4,774	4,800	+26	151	240	+89
金属加工	7,601	7,300	△301	415	450	+35
エンジニアリング サービス	4,203	5,000	+797	651	700	+49
報告事業部門計	36,615	38,600	+1,985	2,798	2,890	+92
連結合計	36,008	38,000	+1,992	2,640	2,700	+60

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	差異	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	差異
化学品	17,896	19,000	+1,104	1,294	1,300	+6
ボトリング	4,774	4,800	+26	151	240	+89
産業用部材	9,741	9,800	+59	700	650	△50
エンジニアリング サービス	4,203	5,000	+797	651	700	+49
報告事業部門計	36,615	38,600	+1,985	2,798	2,890	+92
連結合計	36,008	38,000	+1,992	2,640	2,700	+60

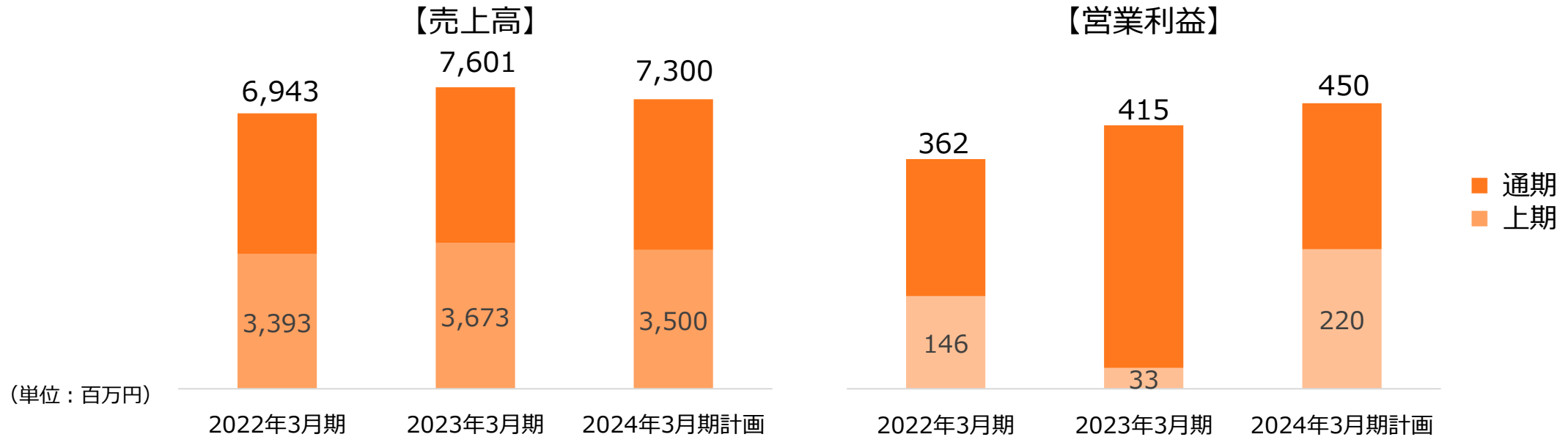
通期見通し < 化学品事業部門 >



中国経済の影響から電子機器関連材料や半導体材料の需要の
落ち込みがある一方、日本国内の経済成長を受け、
自動車向け製品や基礎化学品関連の販売は堅調に推移する見通し

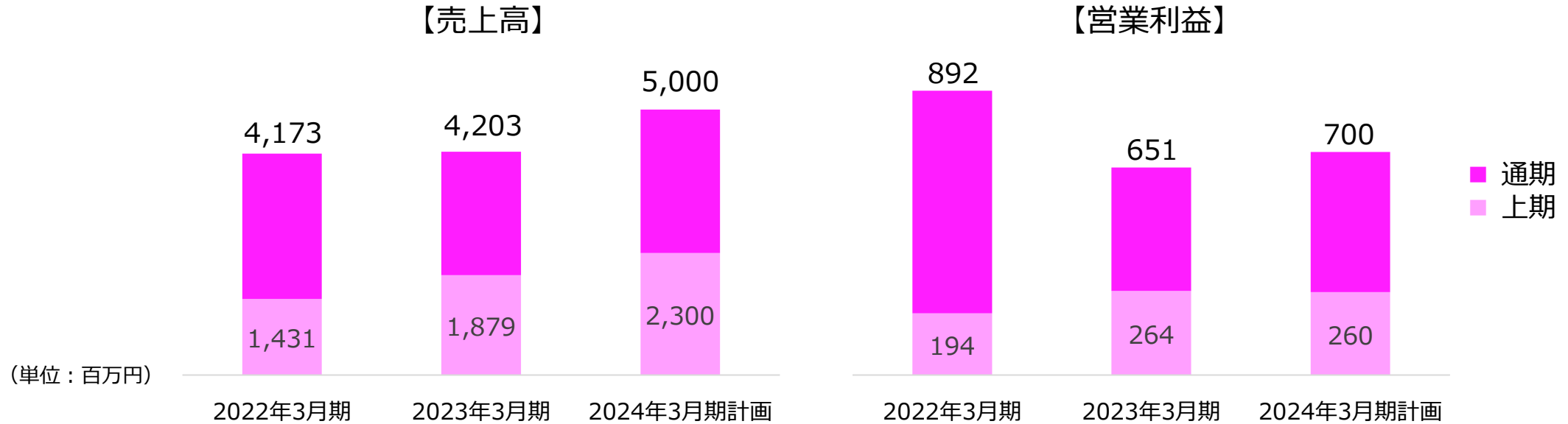


物価高や海外経済減速が下押し要因となるも、サービス消費、
インバウンド需要回復によって国内飲料消費が増え、増収増益の見通し



2023/3月期は自動車、建機、都市ごみ焼却向け等の需要が高く好調。

2024/3月期も、日本経済の動向にあわせ、堅調に推移する見通し



2023/3月期と同様に競争環境の激化傾向が続くため、

利益率が下がるものの、日本経済の動向にあわせ、堅調に推移する見通し

中期経営計画 Challenge 2024

ローリングプラン 2023

経営環境の振り返り：環境変化

◆ 2022年～2023年に生じた外部環境変化

社会・経済環境

- ✓ COVID-19変異株による、国内外経済活動への影響長期化
- ✓ ロシアのウクライナ侵攻長期化による、世界情勢の不安定化

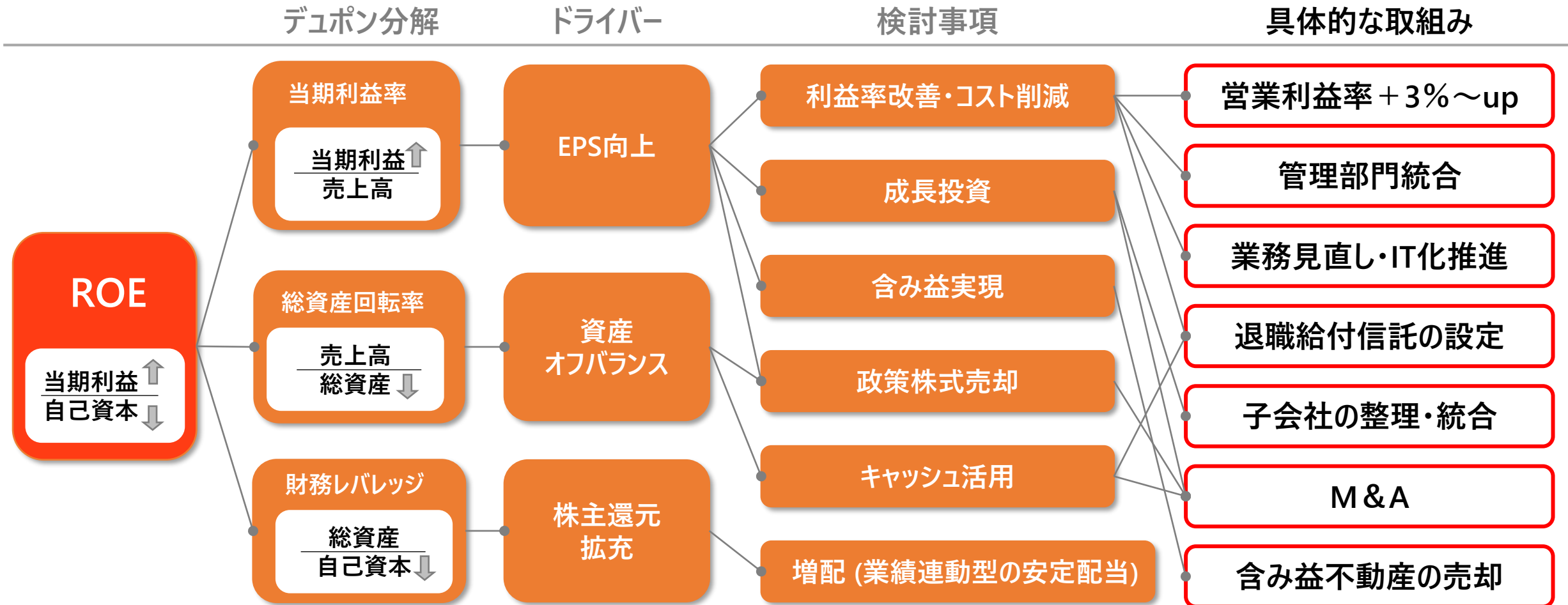
上場企業に対する要請

- ✓ PBR向上を目的とした、資本収益性や市場評価の改善要請
- ✓ 2030年SDGs達成に向けた取組み、ESG経営高度化

- 内外ともに激しい環境変化があり、当社事業にも大きな影響を及ぼした
- 「基盤強化」により、強いカーリットグループを目指すことに変わりはない

ROE向上に向けた考え方と取組み

- ◆ PBRを向上させるには、ROEを高めることが出発点かつ極めて重要
- ◆ 中長期的な価値創造ストーリーに基づき具体的な打ち手を計画的に実施



PER向上に向けた考え方と取組み

- ◆ PBRを向上させるには、利益成長の期待値とされるPERを高めることも重要
- ◆ PER向上には成長戦略の策定実行に加え、財務と非財務両面への取組みを通じて資本コストを低減

構成要素

ドライバー

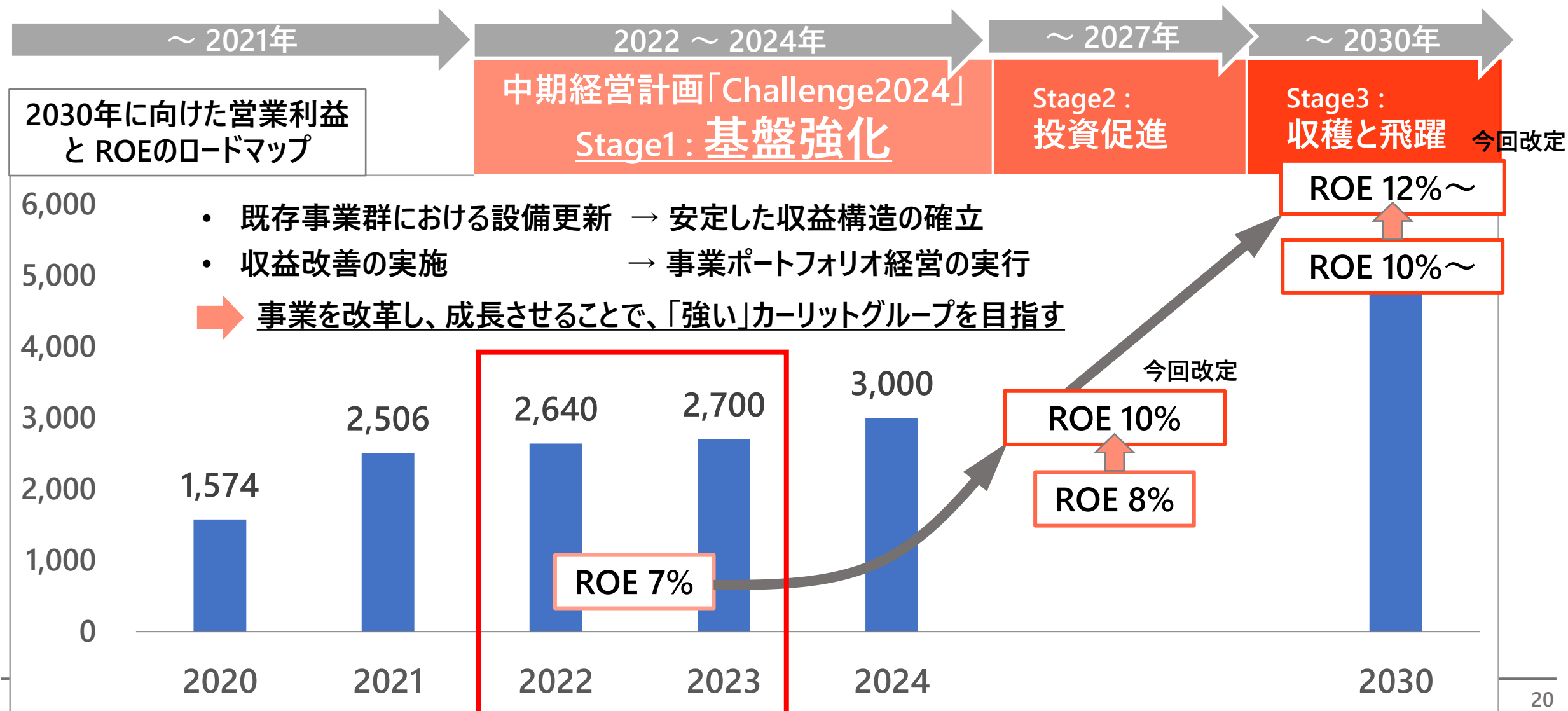
検討事項

具体的な取組み



「ありたい姿」に向けた '22～'23年度の位置づけ

◆ ロードマップにおけるROE目標値を更新



『3%』を『3つ』に分けて

◆ カーリットグループ営業利益率 7%→10% を目指して

2023年度グループ経営方針

中期経営計画「Challenge2024」達成のため
「改革と成長」による営業利益率 **+3%~** の実現

✓ アップデートテーマ1

価値創造の加速化

利益確保と収益性改善

ノンコア・アセットの整理推進

注力・育成領域投資へ
+1%

✓ アップデートテーマ2

ESG経営の高度化

人的資本経営の高度化

脱炭素に向けた取り組み

株主還元へ
+1%

人的資本投資(社員還元)へ
+1%

ローリングプラン2023では、**3%** 増やした利益を、**3等分**して使うことを目指す

信 頼 と 限 り な き 挑 戦



無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に

Q A セ ッ シ ョ ン



Q A セッション

ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none">● JAXAのHIIIロケットの打ち上げ失敗によって貴社に影響はありましたか？	<p>JAXAのHIIIロケットの打ち上げの計画の再開につきましては、現在、具体的な情報は得られておりません。2号機打ち上げに向けて、衛星を搭載しないことで検討が進んでいるという報道等も目にしていますが、引き続き、お客様からの情報収集に努力してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● 民間用ロケットに使う、新しい固体推進薬の開発状況を教えてください。● ロケット推進薬の今後の見通しは？	<p>民間用ロケットで使う固体推進薬は、初号機用について既に製造を完了し、納入を済ませております。その初号機の打ち上げ時期は本年夏頃と伺っており、弊社も打ち上げ成功に期待を寄せております。固体推進薬の開発や生産体制の検討は継続し、事業化に向け鋭意取り組んでまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● シリコンウェーハ事業のセグメント移動の説明がありましたが、化学品事業部門の今年度の見通しを教えてください。● 化学品の利益が横ばいの計画の理由は何ですか	<p>国内の経済成長により、日本カーリットにおける自動車向け製品や基礎化学品関連の販売は堅調に推移すると考えております。一方で、世界経済、特に中国経済低迷の影響により、電子材料や半導体材料の需要が落ち込むと懸念しておりますことから、昨年比ほぼ横ばいとしております。化学品セグメントは事業ポートフォリオにおいて、育成・注力領域でありますので、全社一体がとなり、営業利益増益に注力をいたします。</p>
<ul style="list-style-type: none">● エンジニアリングサービス事業が減益とのことですが、具体的な要因を説明してほしい。	<p>お示しのとおり、塗料販売や塗装工事は増益でしたが、建築や設計における減益が大きく、事業部門全体として減益となりました。建築・設備工事においては、建築資材の高騰の影響が大きく、収益性の高い案件が獲得できませんでした。こちらにも案件獲得すべく、鋭意営業活動を進めてまいります。構造設計においては、需要は堅調に推移しておりますが、市場における競争が激しく、適正価格を確保できない案件は、辞退することもあり、減益となりました。今年度は収益性の高い案件を確保するとともに、DX化を進めるなど、収益性の向上を総合的に進めてまいります。</p>

Q A セッション

ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none">● 設備投資について説明していただきたい。● 今年の設備投資計画について教えてください。	<p>設備投資は、事業ポートフォリオ経営にもとづき進めてまいります。 具体的には、注力・育成領域へ約12億円。基盤領域へ約2億円の設備投資を検討しております。 注力・育成領域では、老朽化対策に加えて、SDGsも強く意識し、生産効率の向上を目的とした投資を積極的に進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● 貴社グループ全体への質問ですが、価格改定の状況はいかがでしょうか。● 御社製品の適正価格への取り組み状況を教えてください。● 収益性改善の課題はどう考えますか？低採算の商品に対して撤退の決意は社内でも抵抗が強いのでしょうか？	<p>現在のところ、原料価格の高騰にもとづく適正価格への交渉は、化学品や金属加工セグメントでは順調に進んでおります。 ボトリングセグメントについても、ブランドオーナーとの交渉を粘り強く行い、価格改定の決着が近いと聞いております。 今後も弊社グループが適正な利益を得られるよう、お客様の理解を得ながら、引き続き、価格改定を推進してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● ローリングプランの説明の中に管理部門統合とありましたが、狙いは何ですか。	<p>日本カーリットは、当社グループの中核事業会社であり、中核会社と持株会社の管理部門の統合し、迅速な意思決定とコスト削減を実現するため取り組んでおります。加えて、管理部門統合とともに、人員のリバランスを行ってまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none">● 営業利益を3%上げるという取り組みについて、詳しく教えてください。● 中計の概要は素晴らしいと思いますが、具体性が乏しいと感じます。7%から10%の利益率は大変だと思いますが、具体的な取り組みを詳しく教えてくださいませんか。● PER向上策の中にあつた、ターゲットIRとは、具体的にどのようなことをするのでしょうか。	<p>特にROEを向上させるべく、ローリングプラン2023でお示しをしている施策を推進し、直近の平均営業利益率7%台から、営業利益率10%台を目指すという取り組みです。 加えて、お客様にご理解をいただきながら 適正価格を確保しつつ、グループ全体のコスト構造改革を進めてまいります。 ターゲットIRについては、当社HPにおいて中計の英語版・中国語版もお示しをさせていただきました。今後、海外のエンゲージメント投資家とも積極的にコミュニケーションを図ってまいります。</p>